

ダムに支えられている沖縄

沖縄県 アミークスインターナショナル中学校 一年 武村 咲栄

私は、沖縄県のダムのことについて調べました。なぜダムのことについて調べたかというと、私達がいつも使う水道やトイレの水などは、ダムから来ているからです。

昔の沖縄県には、ダムがなく、よく断水をしていました。断水とは、水が止まって蛇口（じやぐち）をひねっても水が出ないことです。そのため、長らく断水が続いた時は、鹿児島や神戸、大阪などから船で水が運ばれたこともありました。断水してしまう理由は、川が短いため、降った雨水がすぐ海に流れてしまうからです。雨が降らない日が続くと断水することがよくありました。

昔、沖縄には三つのダムがありました。しかし、どれも貯めることができる量が少なかったためすぐに干上がってしまいます。そこで、大きい山があるやんばるの東村に福地ダムを建設することになりました。そして、一九七四年に福地ダムが完成し、一九七七年には、新川ダムも完成しました。しかし、まだ半分ぐらいの家庭は河川からの水だったため、断水はなくなりませんでした。こうして、毎年のように断水がありました。一番ひどかったのは昭和五十六年と五十七年の断水で、三百二十六日も続きました。そしてその後、一九八三年に、安波ダムと普久川ダムが、そして一九八八年には、辺野喜ダムが完成しました。しかし、各家庭には洗濯機や水洗トイレなどが普及し、家庭で使う水の量も増え、人口も増えたため、ダムを作っても使う水の量に追いつきませんでした。そのため、それから六つ目の漢那ダム、倉敷ダム、羽地ダム、大保ダム、金武ダムの十個のダムを完成させました。そのおかげで、一九九四年以降、断水はしていません。

私達は、この十個のダムのおかげで、この約三十年間断水が起きてい

ません。しかし、水の使い方をまちがえてしまうと、またいつ断水が起るかわかりません。水は、私達が生きていくうえでかかせないものです。そのため、水がなくならないよう、正しく使っていく必要があります。私は、もう二度と断水が起らないように、大切な水をムダにはせず、正しい使い方をしようと、ダムのことを調べて、改めて思いました。それと同時に、私達にとつてとても大切な水を、守っていくうえで私になにができるのかをしっかりと考えていきたいと思いました。